

# 冬道の運転には十分注意を

冬道は制動距離が確実に長くなります。そのため、周囲に注意を払い、危険を早めに発見し、早すぎると思うくらい前からブレーキングを開始することが大切です。

## スリップして尻を振ったら

走行中に横滑りや尻振りが発生したら、あわててブレーキを踏むのは絶対に禁物です。この場合、アクセルを戻すと同時にハンドルを尻振りした方向にすばやく切つて、それ以上の横滑りなどをくいとめるようにすることが大切です。ただし、むやみにハンドルを切ると、蛇行するなど状況を一層悪化させることにもなりかねません。

操作に慣れていないかたは「アクセルを戻し、ブレーキを絶対に踏まない」を実行するだけでも構いません。

また、加速途中やブレーキを踏んだときに尻振りやスリップが発生したときには、ハンドルをむやみに操作しないで、直ちにアクセルやブレーキを戻しましょう。

## わだちのある路面では

わだちのある路面に進入する際には、進入前に確実に減速することが大切です。また、走行する際には、スピードを十分に落とすとして、わだちに逆らわずに走行しましょう。逆らうと思わぬ横滑りやスピンを招いてしまいます。

また、わだちの側面や底にはでこぼこがあり、幅も一定ではありません。そのため、タイヤにさまざまな方向から力が加わり、ハンドルを固く握ってしまうと、結果的にわだちに逆らうことになってしまい危険です。わだちではハンドルを軽く握り、わだちなりに遊ばしてやる方がスムーズに走行できます。

## カーブを走行するときは

カーブの手前では十分に減速するようにしましょう。また、カー

ブ内を走行中には控えめな速度を一定に保つことが大切です。

カーブ内を走行しているときには、不用意なギアチェンジやブレーキングはやめましょう。尻振りやスピンの原因になります。

## 坂道にさしかかったら

下り坂の途中でブレーキを強く踏んだり、不用意なシフトダウンをしたりすると、確実にスリップします。下り坂に入る前には十分に減速し、適切なギアにシフトダウンしましょう。また、ブレーキは踏み込まずに軽く足を乗せる程度で、エンジンブレーキを効かせて、足ブレーキを補助的に使いながら下るようにしましょう。

上り坂の途中でシフトダウンや加速は、登坂できなくなったり、尻振りを招いたりします。上り坂に入る前に、適切なシフトダウンを行い、上りの手前で十分に速度を上げ、途中でスピードが落ちてもアクセルの踏み込みを一定にして登るようにしましょう。

## 視界が不良なときには

追突や衝突から身を守るには、まず自分の存在を他の車に見せることが大切です。そのため、雪が降ってきたらライトをつけるよう

に心掛けましょう。

吹雪などの視界不良時は、安易に勘に頼って走行するのは危険です。視界が十分に確保できないときは、確実にスピードを落とすとか、徐行、一時停止して視界が好転するまで待機するようにしましょう。なお、一時停止するときには、追突されるのを避けるためにブレーキを踏んでストップランプをつけておくようにしましょう。

降雪がなくても、地吹雪や先行車などが巻き上げる雪煙で、突然視界が閉ざされるときがあります。あらかじめ車間距離を長くとり、スピードを控えめにしたりして備えておくことが大切です。

◇ ◇ ◇

交通事故の防止のためには、やはり何といつても、一人ひとりの毎日の心掛けが一番大切です。ドライバーのみなさんは、始めてハンドルを握ったときや始めて冬道を走ったときの緊張感を覚えていますか？ 事故を起こしそうなつたときの「ドキッ」とした、恐怖の気持ちを忘れていませんか？ 自宅では、きつと、家族のみなさんが、あなたが毎日無事で帰って来るのを待っています。事故を起こさないよう、十分に気をつけてください。